

■ 本文

- ① 秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣手は露にぬれつつ (天智天皇 『後撰和歌集』)
- ② 春過ぎて夏来にけらし白妙の衣ほすてふ天の香具山 (持統天皇 『新古今和歌集』)
- ③ 田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ (山部赤人 『新古今和歌集』)
- ④ 奥山に紅葉踏みわけ鳴く鹿の声聞く時ぞ秋は悲しき (猿丸大夫 『古今和歌集』)
- ⑤ これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関 (蝉丸 『後撰和歌集』)
- ⑥ 花の色は移りにけりないたづらにわが身世にふるながめせし間に (小野小町 『古今和歌集』)
- ⑦ 月見ればちぢにもものこそ悲しけれわが身一つの秋にはあらねど (大江千里 『古今和歌集』)
- ⑧ 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせばさめざらましを (小野小町 『古今和歌集』)
- ⑨ 心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花 (凡河内躬恒 『古今和歌集』)
- ⑩ 瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ (崇徳院 『詞花和歌集』)

■ 設問 (全27問)

1. ①「秋の田の～」の歌の句切れの位置を答えよ。
2. ①の歌を句切れなしと判断する根拠を、結句「ぬれつつ」のはたらきにふれて説明せよ。
3. ①の歌の「ぬれつつ」のように、結句を「つつ」で終える表現には、どのような効果があるか。一～二文で説明せよ。
4. ②「春過ぎて～」の歌の句切れの位置を答えよ。
5. ②の歌の句切れと判断した根拠を、第二句末「来にけらし」の形にふれて答えよ。
6. ②の「夏来にけらし」を現代語訳せよ。
7. ③「田子の浦に～」の歌の句切れの位置を答えよ。
8. ③の歌をそのように判断した理由を、結びの「つつ」のはたらきにふれて説明せよ。
9. ④「奥山に～」の歌の句切れの位置を答えよ。
10. ④の歌の句切れと判断した根拠を、係助詞「ぞ」とその結びの位置にふれて答えよ。
11. ④の「声聞く時ぞ」の「ぞ」のはたらき (種類と、結びをどう変えるか) を答えよ。
12. ④の歌について、句切れの有無が一首の調子 (リズム) にどのような効果を与えているか。句切れなしであることをふまえて一～二文で説明せよ。
13. ⑤「これやこの～」の歌の句切れの位置を答えよ。
14. ⑤の歌の句切れと判断した根拠を、結句の止め方 (体言止め) にふれて答えよ。
15. ⑥「花の色は～」の歌の句切れの位置を答えよ。
16. ⑥の歌の句切れと判断した根拠を、第二句末「けりな」の「な」にふれて答えよ。

17. ⑥の「移りにけりな」を現代語訳せよ。
18. ⑦「月見れば～」の歌の句切れの位置を答えよ。
19. ⑦の歌の句切れと判断した根拠を、係助詞「こそ」とその結びにふれて答えよ。
20. ⑦の「悲しけれ」がこの形（已然形）になっている理由を答えよ。
21. ⑧「思ひつつ～」の歌の句切れの位置を答えよ。
22. ⑧の歌の句切れと判断した根拠を、係助詞「や」とその結び「見えつらむ」にふれて答えよ。
23. ⑨「心あてに～」の歌の句切れの位置を答えよ。
24. ⑨の歌の句切れと判断した根拠を、第二句末「折らむ」と係助詞「や」にふれて答えよ。
25. ⑩「瀬をはやみ～」の歌の句切れの位置を答えよ。
26. ⑩の歌の句切れと判断した根拠を、結句「逢はむとぞ思ふ」の係り結びと結びの位置にふれて答えよ。
27. ⑩の結句「逢はむとぞ思ふ」を現代語訳せよ。